

第1回稲美町総合計画審議会 議事録

- 1 日 時 令和8年1月8日(木) 19:00~21:00
- 2 場 所 役場新館4階 コミュニティセンターホール
- 3 出席者
委 員 田端会長、高田副会長、本多委員、坂本委員、本岡委員、岩本広委員、
中本委員、佐藤委員、辻元委員、岩本京委員、畠委員、大西委員、
坂口委員、寺嶋委員
事務局 経営政策部長、企画課長、主査、コンサルタント2名

4 会議の概要

1 開会

- ・事務局より資料の確認

2 町長あいさつ

町 長：日頃より町政にご協力いただき、感謝いたします。総合計画について、第1次計画を策定したのが1972年、今回はその第6次計画後期計画の策定になります。第1次計画策定時は人口増加、そして町の発展を命題として計画を策定しておりましたが、本町の人口のピークは20年前に訪れ、そこから現在まで約2,000人が減少しています。人口減少を抑制するため、これまでハード・ソフトの両面できざまな施策を講じてまいりまして、直近5年では転入超過、また出生数も増加しています。人口自体は徐々に減少していますが、今の状況をキープしていることについては、全国的にみても良い傾向といえると考えております。また、昨年稲美町は町制施行70周年を迎えました。これまでの歩みを大切にしながらも、これからどうしていくのか、皆様とともに考えていくことが重要になります。この後、町制施行70周年の記念動画を見ていただきますが、あらためて、本当に良い町であると感じております。これからもそうあり続けられるように取り組んでまいりますので、皆様にもご協力をお願いいたします。

3 委員の選任・委嘱状の交付

- ・町長から、委員への委嘱状の交付

4 自己紹介

- ・委員及び事務局、自己紹介

5 会長・副会長の選出

- ・会長に田端委員、副会長に高田委員を委員一同の承認を得て決定

6 会長、副会長就任のあいさつ

- ・会長、副会長からあいさつ

7 諮問書の提出

- ・町長から会長へ諮問書の提出

8 審議事項

(1)第6次稲美町総合計画後期基本計画の策定について

- ・事務局から、資料1「第6次総合計画後期基本計画の策定について」について説明

(質疑応答)

会 長：自治体によって総合計画と総合戦略の立て方は色々です。元来総合戦略は人口を増やすということが目標となっていますが、稲美町では総合計画の人口に関する部分に特化する形で人口ビジョンを入れており、そのビジョンを達成するために総合戦略があります。総合計画は10年間の町の大きな見取り図となるものですが、第6次計画策定時は新型コロナウイルスが流行していた時期で、今とは状況が異なることから、今回は後期基本計画ですが基本構想も見直していく可能性があるかと思います。皆様にはその旨ご理解をいただければと思います。

(2)住民アンケート調査の結果について

- ・事務局から、資料2「稲美町住民アンケート調査 調査結果報告書」について説明

(質疑応答)

会 長：このアンケート調査結果について、どういう解釈をするかということですがその意味でも住民でもある皆様が実感を込めた解釈をすることが重要かと思えます。例えば20歳代と50歳代の回答は、親子関係にあるくらいの年齢差かと思えますので、ペアのように捉えても良いかもしれません。稲美町では家族を重視した施策をやってこられました。20歳代の方は、親の姿を見ながら回答されているという側面もあるかもしれません。何かご意見やご質問はありますか。

委 員：公共交通に関する課題が出ていましたが、バス停まで行くのが遠くて不便だから、新規に便数を増やしても利用されないということがあるかと思えます。コミュニティバスなどで、細かいニーズに即したところまで来ていただけるなら利用しやすいです。また、町から高齢者優待のタクシー券を渡されていますが、そもそもタクシーがないから利用しづらいということもあります。

明石市のたこバスを稲美町にも、ということも訴えています、1市2町でうまく取り組むことができないのかな、と思います。

会長：公共交通の広域化やフリークエント（頻繁な）、地域密着化については、大きな課題かと思っています。交通計画については別途作成されていることと思いますが、広域化や細かなニーズへの対応といったことを盛り込んでおくと、具体性が出てきます。

委員：総合計画は10年スパンで策定されるということですから、アンケート調査結果にも、その時の勢いが反映されています。稲美町も一時の勢いはなく、人口が減ってきているということで、交通の問題に対しても色々取り組んでいただいています、今の時代の大きな課題となっています。これから人口が減ることは分かっている状況の中で、先程町長からお話のあった転入超過は救いと言えますが、総人口も3万人をいつ割るかというのが実情かと思えます。時代を後戻りすることはできませんが、人口が減りながらも、町がどれだけ活性化していくかということが重要です。福祉が良いから、給食が良いから稲美町に住んでいるという声を聞いたこともあります、これから5年間何を町の売りにしていくのかを考えていく必要があります。

委員：意見というより要望になりますが、アンケートの自由記述回答の結果を見たいです。また、今後に向けて町外に住んでいる方から見た稲美町に対するご意見なども分かれば、違う角度から町の課題を知るヒントになるのではないのでしょうか。町内企業に勤められている町外にお住まいの方にアンケートを実施することは可能でしょうか。

事務局：自由記述について、結果の入力自体はできているのですが、個人の具体名や町への一方的な苦情などが一部見られましたので、今回は資料としてお出ししていませんでした。内容を精査して、公開できる範囲で対応させていただきます。また、転入者や町内企業へのアンケート調査を新たに実施することは難しいと考えておりますが、現行の総合計画策定時には町内全世帯にアンケートをとっており、その後も2年に1回の頻度で住民アンケートを実施しております。企業等へのアンケートについては、今後検討すべきご意見として頂戴させていただきます。

委員：町の情報入手のための手段として、若い人はスマホを利用していると聞きますし、あまり広報は見ないという印象でしたが、広報いなみで情報を得ている方が多いのですね。私も、スーパーに置かれている広報いなみが割と早く無くなるということや、自治会に入っていない人が広報から情報を得ているというような話は耳にします。もっと色々な小規模なお店にも広報を置いてもらって、住民の皆さんに目に触れる機会が増えてほしいです。

事務局：広報の仕方については、総合戦略の会議でも色々ご指摘をいただいています。子育て施策など手厚く取り組んでいても、稲美町は情報発信が下手と言われております。今回のアンケートでは、町の情報入手に利用する手段として広報いなみが高いという結果でしたが、ご指摘も踏まえて様々な手段を利用しながら、情報発信の充実に努めたいと考えております。

委員：調査対象に外国人は含まれるのですか。

事務局：本アンケートの対象は無作為抽出しており、年代、お住まいの地域については実態に即してばらけるよう調整していますが、その他の調整は行っており

- ません。
- 会 長：無作為抽出であれば、町に住んでいる外国人と同じ比率で抽出されているはずですが、回答者の年齢を見ると高齢者が多くなっていますし、調査票については日本語での表記になっていますので、外国人の回答者は少ないことが推測されます。
- 事 務 局：現在、稲美町に居住されている外国人は約 700 人となっています。
- 委 員：今、外国人無しではまちづくりはできないような状況になってきていると感じています。ある程度外国人のことも考えて計画を検討する必要があると思います、質問しました。
- 会 長：外国人は若年層に多く、先々のまちづくりにそういう方に参画していただくという考え方は重要かと思います。アンケートの他に、外国人のご意見を聞く機会はあるのでしょうか。
- 事 務 局：なかなか個別にご意見を聞く機会というのはないのですが、来年度総合計画に関連してワークショップやパブリックコメントを実施する中で、外国人が勤務する事業所等に力を入れてご意見を聞いていくことはできるかと考えています。
- 委 員：40 年来、年末になるとある自治会の消防訓練に行っているのですが、去年はベトナムの方が 4～5 名参加してくれまして、これはすごい戦力だと感じました。消防団が 10 年前、20 年前とどう変わったか、今後どうなっていくのかを考えた時に、イベントなどで外国人と触れ合う機会を作って、地域のことにも参加してもらえるようになるのではないかと思います。
- 会 長：雇用の面でも、外国人無しには成り立たなくなっていますが、まちづくりや地域づくりにも関わっていただきたいというご意見です。今後ご意見についてはワークショップ等を通じて拾い上げるということで、お願いいたします。
- 委 員：43.2%という有効回収率は高いといえるのでしょうか。
- 会 長：自治体が実施する調査では回収率 5 割を目指すというようなことも言われますが、いかがでしょうか。
- 事 務 局：高齢者や子どもといった対象を絞ったニーズ調査と比較すると、今回のような住民全体を対象とする意識調査の回収率は低くなります。他自治体と比較しても、4 割を超える回収率は低いものではないと考えています。
- 委 員：若い世代の意見がもっと反映できると良いと思います。特に 10 歳代からの回答が少ないですが、若い世代に適応したやり方が必要です。情報収集についても、若い世代向けになっていないかと思います。
- 事 務 局：若者向けの情報発信については、インターネットや SNS の活用なども充実しながら、積極的に進めていきたいと考えております。なお、今回のアンケートでは、10 歳代といたつつ、対象は 18 歳と 19 歳のみとなっており、全体で見ると 10 歳代としての回答は少なくなっていますが、若年層の回答率自体は、わずかではありますが、前回より上がっています。
- 委 員：広報の充実は難しい問題だと思えます。一般の人は、LINE などによる情報も見ますが、自分が興味のあるところだけで、それ以外は素通りしてしまいます。公共交通の話題も出ましたが、若い人は車そのものに興味がなく、車の維持にもお金がかかるので、必要がなければ乗らなくてもいいという人が多いように感じます。10 年後には自動運転が可能になっているかな、とい

う印象もあります。

会 長：広報については町も苦心されているところかと思しますので、良いご意見があれば、ぜひお願いしたいと思います。先々のテクノロジーを計画にどこまで取り入れるかということも重要で、自動運転についても、もしかしたら10年以内に実現するかもしれないようなスピード感で進んでいっています。

委 員：問23で子育て支援のために重要なことを聞かれています、本当に子育て支援として何が求められているかについては、もっと子育て世帯に寄り添った選択肢にした方がいいと感じました。子育て支援によって、課題のまとめにある「3.人口減少と若年層定住に関する課題」や「6.子育て・教育支援に関する課題」の項目に対応するのであれば、具体的に必要な支援としては経済的な支援だと思います。子どもに食べさせたいと思える基準の米を買えないような状況の中で、米の値段は高止まりしたままで、家庭の所得は上がっていかない。今から子どもを産もうとする母親はどうすればいいのか。また、稲美町には保育園が5園しかありません。私の子どもは何とか入園することができましたが、町外からの転入者であることも含めて頼み込んでやっとという状況で、やはり預け先が見つからなければ町外に出るという選択肢も考えざるを得ないと思います。やはりお金の問題は切実で、国の支援として子ども一人当たり2万円が支給されるといった一時的な支援はありますが、日々必要なものと感じています。

事 務 局：アンケートの項目については、今回が第6次後期計画策定に向けたアンケートということで、結果を経年比較するために前期計画策定時と同内容で実施いたしました。今後、第7次総合計画を策定する際のアンケートでは、まったく異なる項目で調査設計することも可能ですので、貴重なご意見として活かしてまいりたいと思います。子育てにかかるお金の問題は、切実なご意見と承知しておりますので、頂戴したご意見も踏まえてより良い総合計画を策定していきたいと考えております。

委 員：息子が3人いるのですが、兄の頃にはあった色々な行事が、弟の代では無くなってしまいました。球技大会や駅伝大会、稲美中学校ではマラソン大会も無くなりました。子どもの行事がどんどん無くなっていき、今度は中学校の部活動が無くなってしまふ（地域移行する）という話もあります。田舎だからこそできていた、誰もが参加できるような行事やイベントが減っていき、子どもを育てていく楽しみが減ってしまったように感じています。小中学校の子どもが参加できるような取組を考えていただきたいです。また、公共交通の話も出ていましたが、20歳代の息子が就職し、配属先が神戸になった場合、住んでいる地区から土山駅までの交通の便が悪く稲美町から通うのが難しいので、神戸に引っ越すことも検討しています。もう少し交通の便が良ければ家から通うことができたのかなと思うところです。

会 長：いずれも非常に貴重なご意見であったかと思えます。まず子育てについては、アンケート結果からも安心・安全が重要であるという意見が増えていることが読み取れます。20歳代、30歳代の若者も、第3の居場所として多世代や住民同士の交流ができる、安心できる居場所を求める声が多くなっています。これはお話いただいた行事やイベントなどの場が減っているという課題と共通するように感じました。また、産業活性化のために重点を置くべきことの

20 歳代、30 歳代の回答に注目すると、農産物のブランド化や観光交流など、物を持つことよりも、いかに物を使うか、関係性を築いていくかということに、関心が高いように感じました。また、町の施策の満足度で不満が多いのは、公共交通の他には、田園集落の土地利用の推進、良質な住宅・宅地の整備推進、それから適正な土地利用の推進、安全な道路整備といった都市計画の分野に関わるものです。この結果からは、稲美町という空間をもっとうまく使えるのではないかと、という住民の期待が感じられます。調査結果については、年齢層別も含めてこういった様々な目線でも読み込んでいただいて、メリハリをつけて検討を深めていただければと思います。

副会長：感想になります。この結果には 60 歳代、70 歳代の考えがよく表れていて、これは自分の考えと多く一致するものでした。バスをどうするのか、朝の土山駅にたどり着くために、どれほどやきもきするか。稲美町単独の責任ではないかもしれませんが、何とかしないといけない課題です。また、正論として地域の祭りやイベントが活発な方が楽しいというご意見があるかと思いますが、シニア層がそこから脱退している現状があります。なぜかという、やはり準備が大変でやめてしまいます。イベントは確かに楽しい。小学生と 70 歳代が交流できることは発見もあり楽しいものですが、その場に出てくる人は少なくなっています。様々な世代の人が、別のことを考えている中で、町として力を投入するところを見極めていく必要があります。

会長：世代によって関心や喜びは異なります。公共交通の問題も多く出てきましたが、例えば公共交通ではなくて車交通を前提としたまちづくりはどうかなど、多様な側面から計画について考えていければと思います。

9 その他

・事務局より、次回日程（2月2日～2月20日）の調整について連絡

10 閉会

事務局：これで本日の全ての予定が終了いたしましたので、第1回稲美町総合計画審議会を終了いたします。皆様長時間ありがとうございました。

（閉会）